

厚生労働科学研究費補助金(長寿科学政策研究事業)  
「要介護高齢者の生活機能向上に資する効果的な生活期リハビリテーション/  
リハビリテーションマネジメントのあり方に関する総合的研究」  
平成 28 年度分担研究報告書

日本理学療法士協会の生活期リハビリテーション領域における生涯教育の現状と課題

分担研究者 植松 光俊(星城大学 名誉教授、日本理学療法士協会 常務理事)

**【概要】**

今回、「要介護高齢者の生活機能向上に資する効果的な生活期リハビリテーション/リハビリテーションマネジメント」を提供することを期待されているリハビリテーション専門職の一つである理学療法士の当該サービス提供技術水準がいかん担保されているかが重要な要件である。本報告では、当該技術水準の担保を目的とした生涯教育研修において公益社団法人 日本理学療法士協会がどのような取り組みをし、どのような成果を上げているかについての調査し、その現状と課題を明らかにした。

その結果にもとづき、今後、生活期リハビリテーションにおいて有用な技術水準を有する人材を可及的早期に養成できる教育研修システムの構築のための要因について明確死にいていく予定である。

A. 研究目的

日本理学療法士協会(以下、PT協会)の生活期リハビリテーション(以下、リハ)/リハマネジメントにおける生涯教育研修システムの現状と課題の分析を行った。

B. 方法

PT協会の生涯学習システムにおける研修構成と専門領域分類と各領域における研修水準と修了者数、特に生活期リハにおける実態調査し、研修システムの課題を明確にした。

C. 結果

1) PT協会の生涯教育の基本理念と目標

基本理念:

第1に、新卒の理学療法士に対する、あるべき基本姿勢への理解や資質の向上がある。

第2には、理学療法の専門分野における職能的水準の引き上げである。

第3には、前述した二つの理念の基盤となる大切な趣旨として、自発的な学習の継続である。

行動目標:

- ・ 理学療法士の技術の高揚を目途にし、徹底した理学療技術のスキルアップを図る
- ・ 時代の要請に従った理学療法スキルチェンジを推進
- ・ より多くの認定理学療法士の育成誕生

## 2) 研修機能と構成

この役割を担っているのが「生涯学習機構」であり、その研修機能は大きく4つに分類され、キャリアラダーである生涯研修システムを構成する研修制度(図1)はそのうちの3つ(下線)である。

- |                         |   |                |
|-------------------------|---|----------------|
| (1) 日本理学療法学会研修大会        | } | キャリアラダーである研修制度 |
| (2) <u>新人教育プログラム</u>    |   |                |
| (3) <u>認定・専門理学療法士制度</u> |   |                |
| (4) <u>推進リーダー制度</u>     |   |                |

それぞれの研修機能と実態を提示する。

### (1) 日本理学療法学会研修大会(現在のところ、卒業後1～5年の若い会員を対象にしている)

例として、第51回全国学術研修大会(沖縄)を挙げて、例年の傾向と対比しながら分析した。

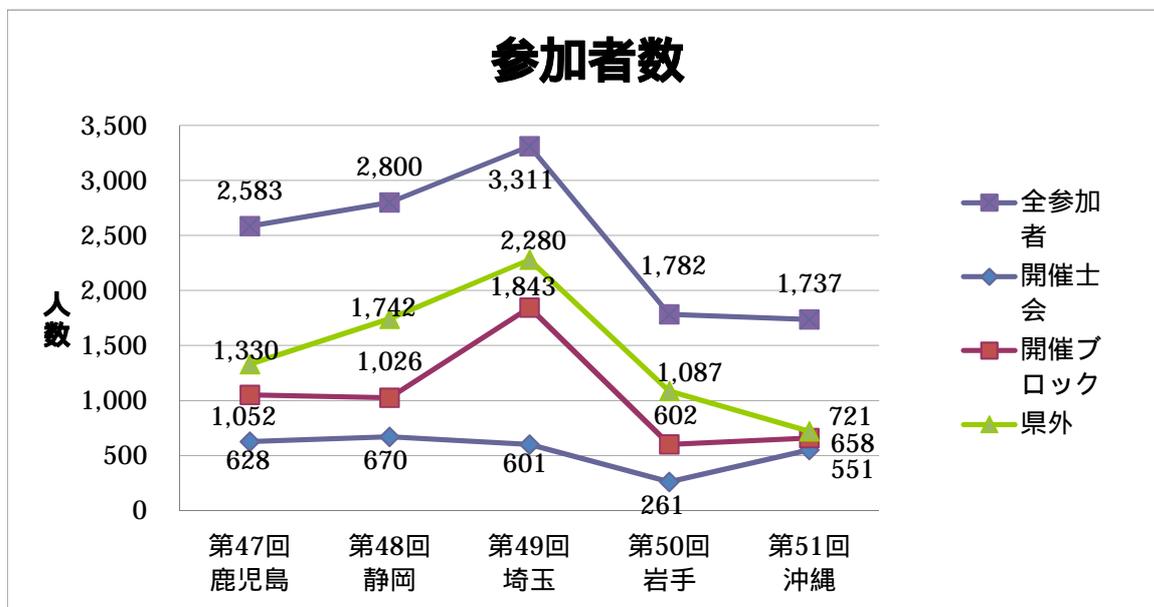
テーマ：未来へ発信！ 新たな理学療法戦略を探る

開催地：沖縄コンベンションセンター      開催日：平成28年10月7日(金)・8日(土)

企画：40題のセミナー

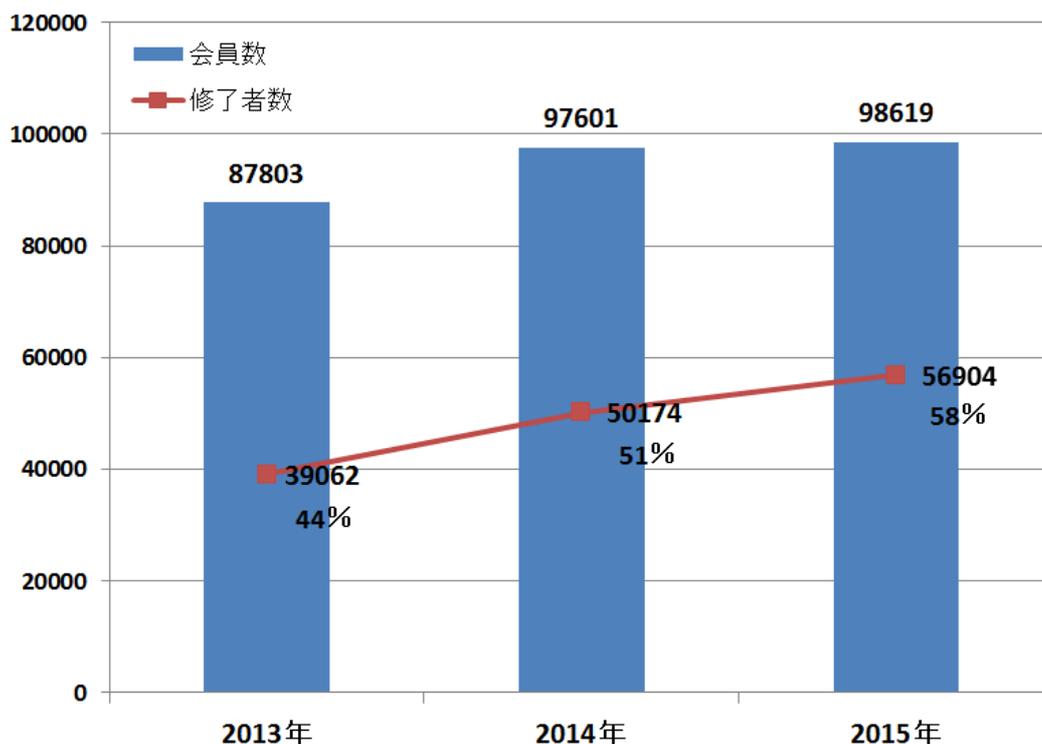
基調講演	1題	トピックス	8題
特別講演	2題	テクニカルセミナー	2題
シンポジウム	1題	協会企画セミナー	2題
セミナー	23題	市民公開シンポジウム	1題

今大会は、「未来へ発信！ 新たな理学療法戦略を探る」をテーマとし、「予防」「治療」「支える」「緩和」のライフステージ(病態時期)における講演、セミナーが企画されていたが総花的な研修テーマ・内容の傾向にあった。参加者分類の比率として、過去の大会では、開催都道府県士会員の参加が2割程度にとどまり、県外参加者は5～6割であり、全国研修会としての役割を果たしていたのに対し、沖縄大会では、参加者数のうち約3割が沖縄県士会員の参加であり、県外参加者は4割にとどまっていた。各プログラムの聴講者数をみると、運動器系や神経系のプログラムに人が集まっており、地域(生活期含む)リハはこれに次ぐ傾向にあり、理学療法士の関心の高さが窺える。



(2) 新人教育プログラム修了率 (2013 年度 ~ 2015 年度)

ここに示された修了者数・比率は全会員数に対するものであり、卒業直後の新規入会者に対する受講修了比率は9割前後と非常に高い値を示している。



(3)認定・専門理学療法士制度 認定資格取得状況

認定理学療法士については、2014年度までは、毎年300名～400名の取得者数であったが、2015年度より約1,000名の取得者数と飛躍的に増加している傾向にある。特に専門領域別にみると、上位3位は脳卒中、運動器、呼吸の順であるが、生活期リハに関連する地域理学療法は4位に位置している。

認定理学療法士取得者数および構成比(%) (2011年度～2015年度)													
領域名	2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		総数
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	
ひとを対象とした基礎領域	4	1%	9	3%	3	1%	4	1%	12	1%	8	1%	40
動物・培養細胞を対象とした基礎領域	1	0%	3	1%	4	2%	1	0%	4	0%	1	0%	14
1 脳卒中	31	11%	60	17%	59	29%	107	25%	257	26%	303	27%	817
神経筋障害	4	1%	7	2%	4	2%	8	2%	16	2%	13	1%	52
脊髄障害	1	0%	5	1%	4	2%	13	3%	11	1%	9	1%	43
発達障害	8	3%	7	2%	7	3%	13	3%	20	2%	16	1%	71
2 運動器	51	18%	43	12%	25	12%	51	12%	218	22%	164	14%	552
切断	0	0%	2	1%	1	0%	1	0%	1	0%	2	0%	7
スポーツ理学療法	24	8%	21	6%	4	2%	14	3%	44	4%	42	4%	149
徒手理学療法	10	3%	11	3%	2	1%	11	3%	25	2%	21	2%	80
循環	19	7%	32	9%	13	6%	41	10%	94	9%	70	6%	269
3 呼吸	31	11%	58	17%	13	6%	62	14%	104	10%	101	9%	369
代謝	13	4%	19	5%	6	3%	13	3%	35	3%	27	2%	113
地域理学療法	22	8%	16	5%	12	6%	39	9%	82	8%	99	9%	270
健康増進・参加	7	2%	3	1%	1	0%	6	1%	3	0%	5	0%	25
介護予防	38	13%	18	5%	3	1%	19	4%	35	3%	46	4%	159
補装具	2	1%	4	1%	4	2%	4	1%	9	1%	5	0%	28
物理療法	2	1%	3	1%	7	3%	4	1%	2	0%	164	14%	182
褥瘡・創傷ケア	1	0%	1	0%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	4
疼痛管理	0	0%	2	1%	2	1%	0	0%	1	0%	1	0%	6
臨床教育	6	2%	7	2%	9	4%	9	2%	10	1%	13	1%	54
管理・運営	8	3%	8	2%	11	5%	7	2%	11	1%	17	1%	62
学校教育	6	2%	7	2%	11	5%	1	0%	11	1%	16	1%	52
合計	289	100%	346	100%	207	100%	428	100%	1,005	100%	1,143	100%	3,418
取得者数/会員数	0.41%		0.45%		0.25%		0.47%		1.05%		1.11%		3.33%

専門理学療法士については、2011年度までの暫定の取得者は多いが、以降の取得者は毎年10名程度となっている。主にアカデミー・リサーチベースの専門資質の高さをみるこの分野においては生活期リハを専門理学療法士として認定されているものはいない状況にある。

専門理学療法士認定者数(2010年度～2015年度)													
分野	2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		総数
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	
基礎	237	13%	5	6%	5	14%	5	50%	1	8%	1	7%	254
2 神経	346	20%	19	25%	8	22%	1	10%	4	33%	4	29%	382
1 運動器	461	26%	22	29%	13	35%	0	0%	2	17%	2	14%	500
内部障害	272	15%	12	16%	5	14%	2	20%	4	33%	4	29%	299
3 生活環境支援	289	16%	11	14%	4	11%	1	10%	1	8%	2	14%	308
物理	36	2%	5	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	41
教育・管理	128	7%	3	4%	2	5%	1	10%	0	0%	1	7%	135
合計	1,769	100%	77	100%	37	100%	10	100%	12	100%	14	100%	1,919
取得者数/会員数	2.31%		0.09%		0.04%		0.01%		0.01%		0.01%		1.76%

#### 4) 推進リーダー制度 推進リーダー資格取得状況

国が2025年を目指し構築を急いでいる地域包括ケアシステムにおいてリハ専門職の活用が推奨されているが、PT協会はその期待に応えるべく3年前からその推進リーダーを養成してきた。その結果、現時点では、その数は全会員の12%に至っており、特定のモデル県（大分県など）においては地域包括ケアシステムの推進に大いに貢献している。しかし、全国レベルで見ると、まだまだ道半ばの感が強い状況にある。生活期リハ/リハマネジメントの研修にあたるものとしては地域包括ケア推進リーダーが最も近いものではあるが、その研修項目・内容をみる限りにおいては生活期リハやリハマネジメントの的確な実践のために必要な評価・サービス提供スキル向上に効果的な研修項目や現場研修施設での研修の要素が極めて少ないものとなっている。

	2014年度	2015年度	2016年度	総数
地域包括ケア推進リーダー	3,347	2,455	1,265	7,067
介護予防推進リーダー	2,950	2,204	1,218	6,372
合計	6,297	4,659	2,483	13,439
取得者数/会員数	6.58%	4.53%	2.28%	12.3%

#### D. 考察およびE. 結論

日本理学療法学会研修大会は総花的な傾向にあるが、若い会員の高い生活期リハへのそれなりの関心の高さがあるにも関わらず、時代のニーズに応える領域の技術研修の要素はほとんどないと言って良いと判断できる。生活期リハの世の中のニーズからみた場合、同研修大会の対象者世代層を上げた、下線部の要素を加味したストラクチャー、プロセスの改革を通じた研修成果を上げることができる同研修大会改革が待たれる。

PT協会の他の研修機能、(2)新人教育プログラム、(3)認定・専門理学療法士制度、(4)推進リーダー制度においても、PT協会会員の地域(生活期リハを含む)リハに対する関心の高さに関わらず、当該専門領域、特に生活期リハ/リハマネジメント領域の認定研修リーダーがほぼない状態にある。これらの現制度の課題である第三者評価に耐えることができる認定理学療法士制度の再構築が目論まれているが、その完成には多くの時間が必要であり、そこまで時代は待ってくれない状況にある。しかし、唯一、推進リーダー制度における地域包括ケア推進リーダー研修が生活期リハ/リハマネジメントの研修に最も近いものといえるが、その研修項目・内容をみる限りにおいては生活期リハやリハマネジメントの的確な実践のために必要な評価・サービス提供スキル向上に効果的な研修項目や現場研修施設での研修の要素が極めて少ないものとなっている。

以上のことから、ニーズ・緊急性の高い領域(生活期リハ/リハマネジメント)における細分化した研修ステップを設け、当該技術水準を着実に向上させる人材育成のためのキャリアラダー企画の推進が喫緊の課題といえる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的所有権の出願・登録状況

なし